

静岡新聞 2025 年 11 月 19 日 付

## 論壇

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

大分前のことになるが、この紙面で、大阪で開催されている四天王寺ワッソというお祭りについて紹介したことがある。大阪には多くの在日韓国人の方が生活されているが、そうした方々と関西の財界人の方々の主導で開かれているお祭りである。

ワッソは韓国語で「来た」という意味である。太古の時代から現在に至るまで多くの人が朝鮮半島から渡ってきて、文化や社会の交流が続いている。聖徳太子の時代をはじめとしてさまざまな時代に歴史上の有名な人物が日本に渡ってきている。お祭りでは、そうした人物の衣装をまとうて多くの人が参加している。また、西国の若者によって民族舞踊からKポップまでさまざまなパフォーマンスが披露されている。

このお祭りは開始されてか

# ソフトパワーで日韓連携

ら35年になる。今年のお祭りでは、日本の高市早苗首相や韓国の李在明大統領のメッセージも寄せられた。西国政府の支援も得られ、意義の大きなお祭りとして定着したようだ。

35年ともなると、お祭りの中身も少しずつ変わってきている。最初の頃は歴史絵巻や民族舞踊などのパフォーマンスが中心だったが、最近は日本でも若者に人気の高いKポップの演技も披露される。大阪の高校にはKポップを対象とする専攻を設けているところもあり、将来のスターを夢見て歌や踊りに磨きをかけている若者の姿が印象的であった。

日韓関係という点、難しい問題がいくつもある。慰安婦問題、徴用工問題、領土問題などがある。それらの問題について日韓両国でさまざまな意見の相違がある。また、日本と韓国の双方で、国内においてもさまざまな意見がある。そうした問題が、日韓関係を難しくさせている。ただ、こうした歴史問題は100年程度の話である。日本と朝鮮半島の交流は2千年近くにも及ぶものであり、そうした絆の重要性を歴史から学ぶ必要がある。これが四天王寺ワッソのメッセージである。

さて、現在の日韓関係であるが、足元では深刻な問題は起きていない。慰安婦問題や徴用工問題で大きな報道も出ていない。ただ、韓国の裁判所ではこれらの問題について依然として審議が行われており、日韓問題として表面に出てくることもあり得る。

そうした政治的に難しい問題を回避しながら、日韓の間に建設的な関係を構築するには、過去の歴史だけに縛られず、現在の人々の交流を大切にすることが必要となる。日本の多くの若者がKポップの音楽やダンスに夢中になり、韓国の若者が大挙して日本に観光にやってくる。ソウルの街には日本レストランが多く出店し、日本の多くの街に韓国料理の店が出てくる。このような民衆レベルでの交流が可能であるのは、両国が地理的に隣接して文化的にも似通った面があるからだ。

日本にとって、中国やロシアや北朝鮮など、外交的に難しい問題を抱えた隣国が多い。だからこそ、韓国との良好な関係を維持することの意義は大きい。そのためには軍事同盟というハードパワーもさることながら、文化や人的交流というソフトパワーを通じた連携の意義が大きいと思われる。